令和元年度指定管理者評価シート

1．管理運営の状況等

(1)施設名	さいたま市宇宙劇場
(2)施設概要	①所在地　さいたま市大宮区錦町682番地2 JACK大宮 ②施設の設置目的　市民の科学知識の普及と文化活動の推進を図り、もって地域文化の向上に寄与するため ③施設の概要　３～５階　ホール　傾斜型ドーム（直径23m） 座席数　280席（車いす席あり） 5階　第１集会室・第２集会室　定員各36名） 第３集会室　定員20名、研修室　定員48名
(3)指定管理者	株式会社五藤光学研究所
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 平成30年4月1日～令和5年3月31日 ②指定管理料 平成29年度103,608千円、平成30年度106,510千円、令和元年度109,286千円
(5)施設の管理運営の内容	①運営業務の状況（利用状況含む） ◇利用状況 ・会議室等利用者数54,386人（前年度55,717人） ・ホール関連事業利用者数65,660人（前年度59,004人） ◇業務実施状況 ・集会室等の貸出し ・プラネタリウムの投映、全天周ドーム映像の上映 ・教育普及業務、学校教育支援・学校等連携業務の実施 ②維持管理業務の状況 ・施設設備、備品等の保守管理 ・施設の清掃 ・施設の機械警備 ③その他の業務 ・プラネタリウム「市民の時間」 ・鉄道ふれあいフェア ・大宮区ミュージアム特別展示 ・日本宇宙少年団さいたま支部に対する活動支援
(6)収支状況	①収入 ・利用料金収入　31,550千円（前年度29,170千円） ・指定管理料　109,286千円（前年度106,510千円） ・その他収入　263千円（前年度125千円） ②支出 ・人件費　106,728千円（前年度106,728千円） ・事務費　4,352千円（前年度8,453千円） ・施設管理費及び事業費　34,505千円（前年度37,575千円）
(7)利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	・館外の案内表示（デジタルサイネージ）を導入し、利用者に対する施設アプローチを分かりやすくした。 ・プラネタリウムエントランスへ椅子や書籍を増やし、入場待ち時間の環境を改善した。 ・投映前アナウンスを工夫し、利用者への鑑賞マナーアップを促した。 ・集会室等の老朽化した貸出し備品（ポータブルCD等）を更新した。
(8)その他	

2. 提案内容の達成状況

（指定管理者から提案のあった項目の達成状況）

提案内容	達成状況
市民の平等利用のための方策	ユニバーサルデザインの考え方に基づき、全スタッフに対して社会教育施設向けの接遇研修、施設ミッション研修、普通救命講習等を実施。障がい者の皆さまが安心してご利用いただけるように筆談や職員による手話での案内を実施。
施設の安全管理	「さいたま市教育委員会危機管理マニュアル」及び「危機管理マニュアル」をベースとし、さいたま市消防局の指導をいただきながら、利用者とともに事業として避難訓練投映を実施。
利用者の満足度の向上	年に1回、日頃の感謝をこめて「宇宙劇場まつり」を実施、体験型のワークショップや、タレントを起用したプラネタリウムイベント、さいたま市の誇りである若田宇宙飛行士のメッセージを伝えるプラネタリウムコンテンツを投映したほか、人気声優によるプラネタリウムでの朗読イベント「ほし×こえ」の実施や、有名アーティストの曲を使用した自主制作によるプラネタリウムコンテンツも投映し好評をいただいた。 また、毎月定期的に天体観望会（星をみる会）を実施し、多くの利用者に本物の天体を観察する機会を市民ボランティアと連携して提供し、アンケートにおいても感謝の声をいただいた。
効果的なアンケートの実施	利用者へのアンケートを継続的に実施し、利用者のニーズや満足度調査を行った。また、利用者のみならず、館外での「非利用者アンケート」も行い、どのような要素があれば利用していただけるかの分析を今年度も継続して実施。
天文・科学・文化の普及活動	科学や天文知識の普及を目的とした講演会においては、国立天文台、仙台市天文台から専門講師を招き、最新の天文情報を分かりやすく伝えることを目的に講演を実施。学習投映については、青少年宇宙科学館と連携し、夏には若田宇宙飛行士アカデミーの共同開催も行った。プラネタリウム運営事業においては、プラネタリウム番組を利用する年齢や興味・関心別に分類した番組枠を設定し、利用者ニーズとのマッチングを高め、利用満足度を図った。解説は、専門資格を有した個性豊かで専門性の高い解説員を配置し、プラネタリウムメーカーならではのハイブリッドプラネタリウム機能を駆使した演出を取り入れ、バラエティー豊かな投映を行った。
地域団体への支援活動	日本宇宙少年団さいたま支部や、さいたまプラネタリウムクリエイトに対する活動支援を行った。また、埼玉大学との連携事業として地学実験教室も行った。
利用促進・広報活動	ホームページの随時更新を行い、Twitter公式アカウントとブログにより宇宙劇場のイベント情報や、投映内容、天文現象等の楽しみ方を積極的に発信した。また、市内教育施設へのチラシ配布（各回124,000部を年4回）の他、電子媒体による広報、大規模な「宇宙劇場まつり」の開催、地元放送局のNACK5との連携事業を行い、宇宙劇場の広報活動の強化を図った。

３．評価

（1）指定管理者による評価

宇宙劇場の設置目的である「市民の科学知識の普及と文化活動の推進を図り、もって地域文化の向上に寄与するため」を踏まえ、この目的を実現するため様々な仕様事業や自主事業を行った。
プラネタリウムを活用した事業では、さいたま市文化協会や、さいたま市音楽家協会との「星空ライブコンサート」の共催を実施。自主事業では、有名声優を起用した朗読イベント「ほし×こえ」を実施し、文化活動の推進を図るとともに多くの新規来館者にもご利用をいただくことができた。
また、地域連携を深める事業として、さいたま市都市整備公社が主催、（株）JR東日本が協力する「鉄道ふれあいフェア」では、共同イベントを開催。
「市民の時間」の特別投映では、市民活動の拠点としての活動支援と協働推進を進め、毎月の定期天体観望会では市民ボランティアとの連携を深めた。
利用者の満足度状況の確認と向上を目的としたアンケート調査も実施し、館内整備や美化に努め、集会室貸出し備品の整備交換を進めることにより、利用者が快適に施設を利用いただけるように心がけた。
一般番組と普及事業等の利用者数が増加した理由として、プラネタリウム番組を利用する年齢や、興味・関心別に分類した番組枠を新設し、利用者ニーズとのマッチングを高め、利用満足度が向上した結果と考える。
来年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じ、施設利用者及び施設職員の安全に最大限配慮しつつ、状況に合わせた市民サービスを企画・計画し、確実に実施していく。

（2）さいたま市の評価（評価担当課：教育委員会事務局生涯学習部青少年宇宙科学館）

総合評価（B）※A～D
・集会室等の貸出しにあたり、附属設備の操作等について適切かつ丁寧な対応を行った。
・イベントや事業参加者を対象としたアンケートにおいて、施設や職員に対する評価も高い満足度を得ることができた。
・アンケートでの意見や要望等について、迅速に改善策を検討し、市民サービスの向上を図ることができた。
・SNS（ツイッター・ブログ）のほか、NHKさいたま放送局やNACK5へ出演するなど、積極的な広報活動を行った。
・施設利用者数が昨年度と比較して5,000人以上増加し、利用料金収入においても増収となった。
・プラネタリウム等企画・投映業務においては、専門スタッフによる魅力的な事業を実施した。特に、星や宇宙に関する曲をBGMに、オーロラ映像を投映した音楽の時間「AURORARIUM」は、大変高い評価を得られ、これまで来館していない新しい利用者を呼び込むことができた。

（3）来年度の管理運営に対する指導事項等

・生涯学習施設として、幅広い年齢層を対象とした事業展開を図り、更なる入場者数の増加、市民満足度の向上を目指すこと。
・新型コロナウイルス感染拡大の情勢・状況を考慮し、制限下での運営においても利用者への情報提供等の手段・手法を工夫し、サービス向上を図ること。